

医学教育分野別評価
久留米大学医学部医学科
年次報告書
2024 年度



令和 6 年 8 月
久留米大学

医学教育分野別評価 久留米大学医学部医学科 年次報告書 2024 年度

医学教育分野別評価の受審 2019(令和元)年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 31

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36

はじめに

受審から4年目にあたる2023年4月1日から2024年3月31日までの期間、COVID-19が5類感染症に分類された後、講義や実習の体制はコロナ禍以前の状態に戻った。しかし、学生たちが教育現場に復帰したものの、コロナ禍で自宅学習を余儀なくされた影響で、プロフェッショナリズム教育に空白が生じ、一部の学生の行動がプロフェッショナルではないと教員から指摘されるようになった。このため、適切な態度の評価方法とそのフィードバックについて、新たな議論が始まった。

また、新しいカリキュラムの導入により集中講義が増えた結果、短期間に複数の学科試験が実施されるようになり、学生が試験勉強を機械的にこなしているだけではないかとの懸念が、学生や教員から寄せられた。これを受け、各科目の試験のあり方や、卒業試験の実施回数についても見直しを検討された。さらに、大学の理念とディプロマポリシーに照らして、現行のカリキュラムで学生が目標を達成できているかを確認するために、卒業生へのアンケートを再度実施した。カリキュラム評価を行う教育評価委員会の機能を強化するために、IR委員会の設立が計画され、教育評価委員会には教務評価、教員評価、カリキュラム評価の3部門の新メンバーが招集された。今後は、卒業生アンケートや、毎年実施している進級・卒業時アンケートの結果を基に、理念とディプロマポリシーに沿ったカリキュラム評価を行っていく予定である。

なお、この年次報告書に記載されている教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に基づき、2023年4月1日から2024年3月31日までの期間を対象としている。重要な改訂がない項目については、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 35 の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

領域1の改善項目として、「学修成果をコンピテンシーとして表現する」、「使命に国際的健康と医療の観点を明確に記載する」、「使命・ディプロマポリシーと学修成果の整合性について検討する」などが指摘された。これを受け、本学の「建学の精神」が制定されたが、使命の内容の変更、学修成果の表現、使命と学修成果の整合性の検討については、引き続き、医学教育ワークショップでの検討を含め改善活動が続ける。

1.1 使命

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①「国手の理想は常に仁なり」という医学部医学科の理念の下に、地域社会に貢献できる人間性豊かな実践的人材の育成を目標として、大学の使命に社会的責任を包含している。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①使命に国際的健康と医療の観点を明確に含むことが期待される。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

使命は「時代や社会、そして地域の多様なニーズに対応できる実践的でヒューマニズムに富む医師を育成するとともに、高水準の医療や最先端の研究を推進できる人材を育成する」であり、年度初めの教授会議で理念と使命(教育目的)が審議され、変更なく承認された。寄付金を活用した短期海外語学研修や研究室配属(RMCP)での短期海外留学、ハワイ医学教育プログラムへの参加等を通じて、今後は、使命の後半部について、「高水準の医療や最先端の研究を推進できる国際的な人材を育成する」に変更するように、改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

教授会議議事摘録(令和5年4月12日)

教授会議議事摘録(令和5年6月14日)

教授会議議事摘録(令和5年7月12日)

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

1.3 学修成果

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

- ①学修成果は達成を示す形のコンピテンシーとして表現すべきである。
- ②使命・ディプロマポリシーと学修成果との整合性について検討すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教務委員会やカリキュラム委員会における検討を進めた。2022 年度実施した医学教育ワークショップで得られた提言に基づき、いくつかの取り組みを開始した。まずは第 6 学年を中心に実施していた学修到達度・学修成果の自己評価についてのアンケート調査を全学年に拡大し実施した。結果については医学教育研究センターを中心に IR により詳細な解析を進めている。また、2024 年度 8 月に開催が予定されている医学教育ワークショップにおいて、医学部全体として使命・卒業時コンピテンシー・ディプロマポリシーと学修成果の整合性について改めて議論する予定である。また学修成果については、評価の対象とできる行動「・・・できる」という達成を示す形のコンピテンシーとして明記できるように、ワークショップのテーマとして教員と参加学生の間で議論を予定している。それへ向けての準備と改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

教務委員会議事摘録（令和 5 年 5 月 8 日）

教務委員会議事摘録（令和 5 年 10 月 10 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①久留米大学病院では独自の臨床研修終了時の学修成果を定め、卒業時の学修成果との整合性をとっている。

改善のための示唆

- ①医学研究に関して学修成果をコンピテンシーとして明示することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医学研究に触れる機会としての RMCP は継続して活動を行っている。コロナ禍が収束し、今年度は従来の方法による研究成果の発表機会を設定した。また、高いリサーチマインドを持つ学生も存在することから、これらの学生へは希望に沿った継続した研究機会の提供を行っている。このように医学研究に対する学生のモチベーションは年々拡大してきている。以上の現状を踏まえ、学修成果については、評価の対象とできる行動で明記できるように、2024 年度 8 月に開催が予定されている医学教育ワークショップでもテーマの一つとして取り上げる予定である。

その結果を持ってコンピテンシーの具体的な内容については教務委員会、医学教育研究センターを中心に議論を進めていく。

改善状況を示す根拠資料

教務委員会議事摘録（令和 5 年 12 月 11 日）

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①使命と学修成果の策定に関し、教員・職員・学生が参加する医学教育ワークショップを定期的
に開催し、議論を重ねたことは評価できる。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①使命と学修成果について、教育関連病院長や医療関係行政組織担当者など、広い範囲の教育
関係者から意見を聴取している。

改善のための示唆

①今後、使命と目標とする学修成果を策定する際には、他の医療職や患者の代表者などからの
意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

PCCE (Pre-Clinical Clerkship Exercise) でのプログラム作成や結果のフィードバック、OSCE
患者会模擬患者からのフィードバックにより、医師以外の医療専門職等からの意見を聴取して
いる。今後は、「使命と学修成果」をテーマに挙げ、主要な教育構成者だけでなく、多様な医療
専門職(看護師・薬剤師・臨床検査技師・診療放射線技師など)や患者の代表者から意見を聴取す
るよう、改善活動が続ける。また、久留米大学教育関連病院長との懇談会が年 1 回以上開催
されており、今後はこのような場で意見を聴取する機会を設けるよう改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

教授会議議事摘録（令和 5 年 9 月 13 日）

教授会議議事摘録（令和 5 年 10 月 11 日）

2. 教育プログラム

領域 2 の改善項目として、「行動科学・社会医学・医療倫理学・医療法学の科目を整理して科目責
任者を明確にする」、「主要な診療科での臨床実習期間を十分に確保して診療参加型臨床実習を充実

させる」、「科目間の水平的統合と垂直的統合を推進する」などが指摘された。これを受け、行動科学は、第2学年の医療概説、第3学年の医療倫理学が別の科目として独立し、第4学年の行動科学は行動経済学や健康行動理論を中心とした科目に再編された。主要な診療科での臨床実習期間の確保、診療参加型臨床実習の充実、科目間の水平的統合と垂直的統合については、引き続き、改善活動が続ける。

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①PBL テュートリアルを独自に発展させた「協同学習」として、チーム基盤学習(TBL)・逆転授業・話し合い学習法(LTD)をさまざまな科目で取り入れていることは評価できる。

改善のための助言

①統合型から改訂した学体系別・講座部門別カリキュラムにおいて、卒業時コンピテンスと科目の関連性を明示すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

改訂コアカリの運用開始に伴い、これに沿った学体系別、講座部門別にコンピテンスとして不足している部分を改めて抽出する作業を行った。その結果、多くの部分でカバーできている一方で、不足している点も少なからず存在することが判明した。この結果に基づきながら、新々カリキュラムの年次評価もあわせて、できるだけ科目間で重複することなく効率的に教育プログラムに落とし込む作業を継続し、卒業時コンピテンスとの関連性を示しながらカリキュラムやシラバスに明示していくよう改善活動を継続する。

改善状況を示す根拠資料

医学教育研究センター マンスリーレポート No.101 (令和5年8月)
カリキュラム委員会議事摘録 (令和5年6月26日)
カリキュラム委員会議事摘録 (令和5年10月26日)
令和6年度 医学教育カリキュラムの原稿作成について (令和5年12月26日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.2 科学的方法

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①臨床実習において EBM の教育をさらに充実すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

臨床実習における EBM 教育の充実については、学生と指導医が病院で EBM を実践できるように、臨床医学情報ツールとしての『UpToDate』を導入している。臨床実習前に行われている臨床実習前訓練（PCCE）では Patient oriented case discussion(POCD)で臨床推論を再訓練しているが、そこで事前学習で『Up To Date』を利用することを促している。それを契機に利用率は向上している。今後は、臨床実習を担当する教員の意識づけを強化し、臨床実習における学生の『UpToDate』利用をさらに促進する計画である。

改善状況を示す根拠資料

UpToDate ユーザー別利用統計 2023 年度

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.3 基礎医学

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.4 行動科学・社会医学・医療倫理学・医療法学

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①「行動科学」の教育プログラムを明確に定義し、社会医学・医療倫理学・医療法学の科目を整理・分類し、それぞれの科目責任者を明確にしてコーディネートすべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

行動科学部会が改善活動を行っている。これまで、従来の行動科学Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳから始まる科目名を社会医学・行動科学系という枠組みの中で取りまとめた上で、科目名を具体的な内容を表すものに変更してきた。具体的には、第1学年で「人間関係論」「地域医療学」「医学心理学」「医学統計学(基礎)」「医学統計学(応用)」、第2学年で「医療概説」「法医学」、第3学年で「医療倫理学」「医療安全」、第4学年で「社会と医学・医療(環境医学)」「社会と医学・医療(公衆衛生学)」「行動科学」を社会医学・行動科学系の科目として実施した。

2024年度は、第4学年における「社会と医学・医療(公衆衛生学)」と「行動科学」で社会保障制度に関する内容を両科目で按分して取り扱っていた状況を整理する。具体的には、社会保障制度論を中心とした公衆衛生に関する内容を「社会と医学・医療(公衆衛生学)」に、行動経済学や健康行動理論の基礎的な内容を「行動科学Ⅰ」として第3学年で実施する。また、行動経済学や健康行動理論の発展的な内容については「行動科学Ⅱ」として2025年度の第4学年の科目として実施する。さらに、従来「社会と医学・医療(公衆衛生学)」の中で取り扱ってきた疫学に関する内容については「疫学」という科目を新設して第4学年の科目として2025年度に実施する。

改善状況を示す根拠資料

カリキュラム委員会議事摘録(令和5年10月26日)

行動科学部会議事摘録(令和5年6月19日)

行動科学部会議事摘録(令和5年11月21日)

教務委員会議事摘録(令和5年7月10日)

教務委員会議事摘録(令和5年12月11日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.5 臨床医学と技能

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

- ①主要な診療科を中心に臨床実習期間を十分に確保し、診療参加型臨床実習を充実すべきである。
- ②学生が健康増進と予防医学の体験を確実に実践できるカリキュラムを定めるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

主要な診療科の臨床実習期間の確保については、第6学年のクリニカル・クラークシップの選択必修科目において、連続する長期間の臨床実習機会を確保している(4週間×2クール+3週間×2クール)。診療参加型臨床実習の充実については、クリニカル・クラークシップ部会の下部組織として「クリニカル・クラークシップ実務者会議」(教育主任が主体)が学生と教員の意見を収集し、診療参加型実習への促進を図っている。特に外来患者の診療に積極的な参加を促し、その形成的評価を行うためMini-CEXの導入を目指し、クリニカル・クラークシップ実務者会議が中心となってFDを始めている。さらに診療チームの一員として参加するために、2023年4月から診療で使用している電子カルテにアクセスし、学生が記載できるページを新設した新システムを導入した。また円滑な学生と指導医との連絡をスムーズに行うため、各診療科の医局秘書を通じて携帯電話を使用した連絡網を整備しているところである。引き続き、第4学年～第5学年の臨床実習において内科系や外科系の診療科で学外実習時間を増加し、長期間(4～8週)の長期統合型臨床実習(Longitudinal Integrated Clerkships: LIC)が行えるプログラムの実践に向けて、協力いただける外部医療施設を探索中である。しかし外部医療施設の指導医に負担が集中することを避けるべく、学内の指導医による学外実習に関する学生の形成的評価の参画も検討中である。クリニカル・クラークシップ部会、とくにクリニカル・クラークシップ実務者会議と臨床実習協議会(複数の学生が参加)が、診療参加型臨床実習を充実させるための方略や具体的な対策を議論し、診療科にフィードバックして改善に向けて反映させる計画である。

コロナ禍での実習制限の影響もあり、健康増進と予防医学の体験に関する内容はカリキュラムで明確に定められているとは言えない状況である。今後は、カリキュラム委員会と教務委員会(主にクリニカル・クラークシップ部会)が協働して臨床講義及び臨床実習における健康増進と予防医学の体験を実践できる機会を設けることができるように改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- クリニカル・クラークシップ部会議事摘録(令和5年11月1日)
- クリニカル・クラークシップ部会議事摘録(令和6年3月6日)
- クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録(令和5年12月18日)

クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録（令和6年2月5日）
カリキュラム委員会議事摘録（令和5年6月26日）
カリキュラム委員会議事摘録（令和5年10月26日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①2015年から導入した新カリキュラムにおいて、低学年から学外の施設で早期体験学習を実施している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.6 教育プログラムの構造・構成と教育期間

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①改訂した学体系別・講座部門別カリキュラムにおいて、科目間の水平的統合を推進することが望まれる。
②改訂した学体系別・講座部門別カリキュラムにおいて、基礎医学・行動科学・社会医学と臨床医学の垂直的統合を推進することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

科目間の水平的統合と垂直的統合については、専門科目を基礎医学系、社会医学・行動医学系、臨床内科学系、臨床外科学系、統合医療系、臨床実習系、クリニカル・クラークシップに大

別し、関連の深い科目間における水平的統合の推進を進めた。今後は、基礎医学系・社会医学・行動医学系と臨床医学の垂直的統合を推進するために、カリキュラム委員会や教務委員会で議論するとともに、両委員会の各部会において具体的な改善活動の方針を検討する。

改善状況を示す根拠資料

カリキュラム委員会議事摘録（令和 5 年 6 月 26 日）

カリキュラム委員会議事摘録（令和 5 年 10 月 26 日）

2.7 教育プログラムの管理

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

- ①カリキュラム委員会の活動をより実質化し、カリキュラムの改善を計画・実施することが望まれる。
- ②カリキュラム委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

カリキュラム委員会が、科目再編成を推進している。具体的には「社会と医学・医療(公衆衛生学)」は社会保障制度論を中心とした公衆衛生に関する内容、「行動科学」では行動経済学や健康行動理論を中心とした狭義の行動科学に関連する内容、「疫学」では疫学の基礎理論や感度特異度分析に関する内容に焦点を置いた 3 つの科目に再編することなどを決定した。今後は、令和 4 年版医学教育モデル・コア・カリキュラムを踏まえた形で本学のカリキュラムの問題点について教育評価委員会に意見を求め、その評価結果に基づき計画・実施する。また、カリキュラム委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育関係者(他の医療職・患者・地域医療の代表者)を含めるように、改善活動が続ける。現時点では学生の参画については、あまり学生側の積極的な参加を促進できていない。

改善状況を示す根拠資料

医学教育研究センター マンスリーレポート No. 101（令和 5 年 8 月）

カリキュラム委員会議事摘録（令和 5 年 6 月 26 日）

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①地域医療連携講座を設置して地域の教育関連施設と連携を取り、卒後の研修や臨床の実践につながる教育を行っている。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

- ①カリキュラム委員会を通じ、地域や社会の意見を取り入れて教育プログラムの改良を行うことが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教育関連病院長との懇談会を通じて、地域の医療機関からの意見を取り入れる活動は以前から行ってきた。しかし、ここ数年はコロナ禍の影響もあり、それ以上の改善活動を進めることができていない。今後は、教育関連病院長との懇談会に加えて、地域や社会からの意見をカリキュラム委員会の活動に反映させるための方策を検討し、現在進行中のカリキュラム改革や教育プログラムの改良に取り入れていくよう改善活動を続ける。具体的には、カリキュラム委員会の下に関連する作業部会を設置することを検討している。

改善状況を示す根拠資料

教育関連病院長との懇談会（令和 6 年 3 月 27 日）

3. 学生の評価

領域 3 の改善項目として、以下の点が指摘された。「学修成果を達成するために学年をまたいだ評価体制を構築すること」、「学生の態度を確実に評価し、その評価を記録する仕組みを強化すること」、「臨床実習において、様々な評価方法や形式を適切に活用すること」、「各科試験、総合試験、臨床実習評価において、評価方法の信頼性と妥当性を検証すること」、「知識、技能、態度における形成的評価を充実させること」、「学生の評価結果に基づいた具体的かつ建設的なフィードバックを、全学生に公正に行うこと」などである。

卒業試験と医師国家試験、および基礎医学 CBT と臨床医学 CBT の成績との相関が検討され、統計的に医師国家試験の成績と相関が認められ、信頼性が確認された。さらに、臨床実習における技能

と態度の形成的評価を充実させるため、各臨床診療科に周知され、科目責任者にその重要性が認識され、複数の診療科で Mini-CEX を実施している。

今後も、学年をまたいだ評価体制の構築、態度の評価と記録の仕組みの強化、評価方法の信頼性と妥当性の検証、評価結果に基づいた具体的で建設的なフィードバックの実施に向けて、改善活動を継続する。

3.1 評価方法

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①独自の試験問題プールシステムの利用により総合試験の充実を図っていることは評価できる。

改善のための助言

- ①第1学年の協同学習では、相互評価や形成的評価を含む多角的な評価方法を導入しているが、学修成果を達成するための評価として学年縦断的な評価体制を構築すべきである。
- ②態度を確実に評価し、評価が記録される仕組みをさらに充実させるべきである。
- ③臨床実習において、Mini-CEX・多面的評価(360度評価)・電子ポートフォリオ評価とクリニカルスキル・トレーニングセンターを活用した評価など、様々な評価方法と形式を、それぞれの評価有用性に合わせて活用すべきである。
- ④卒業試験以外の評価においても外部の専門家による吟味を一層行うべきである。
- ⑤評価結果に対して正式な疑義申し立て制度を導入すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

学生個人の成績推移については年度初めに評価を行い、必要な学生に対する面談などの支援を実施している。より具体的な学年縦断的な評価体制については継続して議論を進めているが、まだ構築には至っていない。いままで教務課で様々な学修成果情報の蓄積を行っており、2024年度に IR 委員会が正式に立ち上がり、学年縦断的な成績へアクセスが可能となることが期待される。今後これらのデータを基にした評価方針を設定する予定である。

態度評価については従来の規定(剽窃、カンニング、レポートや必要な申請の遅れ、出席システムにおける不正など)に基づく運用を行い、受験資格の判断や進級判定の材料としている。臨床実習や学外施設見学におけるアンプロフェッショナルな行動については、より厳正な評価が必要と考えている。現在、臨床実習については Hondana (LMS) 上に学生の行動に関する情報が投稿できるサイトを設立し、従来よりもリアルタイムで問題が収集されてきた。収集された問題は臨床実習実務者会議を経て対応するシステムとなっているが、記録する媒体が確立されていない。今後、IR 委員会が核となり従来から切望されていた「学生カルテ」システムの構築に動く予定である。今後は学生の行動規範の設定へ向けての議論も加速させていく。

臨床実習における形成的な評価として Mini-CEX については皮膚科がすでに実践しており、クリニカル・クラークシップ実務者会議においてその情報が共有された。実務者会議ではその普及を進めるべく Mini-CEX 実施に協力いただける診療科を募っている。臨床研修ではすでに看護師による 360 度評価が実践されており、クリニカル・クラークシップにおいてもその導入が可能かどうか看護部と協議する予定である。各学生の経験した症例についての学習についてはレポートや実習最終日の総括におけるプレゼンテーションが主である。しかし形成的な評価を実施するため新たな e-portfolio の作成は費用的にも困難であり、CC-EPOC の導入について議論がはじまっている。態度評価についてはクリニカル・クラークシップ実務者会議の協議にて LMS を基盤として学生の態度問題についてリアルタイムに報告できるシステムとアルゴリズムが確立した。そのため比較的早期に学生の態度に問題がある行動が「見える化」されたが、問題のあった個人に対するフィードバックを行うにはまだ至っていない。

卒業試験については国家試験の成績を踏まえた外部評価者からの意見としてコメントは得ているが、総合試験、各科試験の外部専門家による評価の十分な実施には至っていない。外部専門

家による評価の具体的な方法・手続きについての情報収集が必要であり、検討を継続する。

評価結果に対する疑義申し立てについては、現在、該当する部署（教務課、各科目担当者等）で適宜受け付ける運用体制である。対応方法が統一されていない部分もあるため、今後一定の手続きを経る正式な疑義申し立て制度の導入を教務委員会と教務課、医学教育研究センターが中心となって検討を進める。

改善状況を示す根拠資料

医学教育研究センター マンスリーレポート No. 102（令和 5 年 9 月）

教務委員会議事摘録（令和 5 年 5 月 8 日）

教務委員会議事摘録（令和 5 年 10 月 10 日）

クリニカル・クラークシップ部会議事摘録（令和 6 年 3 月 6 日）

クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録（令和 6 年 2 月 5 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①各科試験・総合試験・臨床実習評価などについて、評価方法の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医学教育研究センターでは、毎年、医師国家試験の成績（点数）と卒業試験・総合試験・共用試験 CBT の成績（点数）の相関を分析し、強い相関があることを確認している。また、国家試験での各領域の本学と全国平均との差異についての分析も行っている。この結果を基に、医師国家試験と相関の低い第 2 学年基礎医学 CBT の実施内容を変更した。今後も総合試験や卒業試験、各科試験との相関を分析し、評価方法や進級判定の妥当性と信頼性を検証するように、改善活動を継続する。

改善状況を示す根拠資料

教務委員会議事摘録（令和 5 年 6 月 12 日）

3.2 評価と学修の関連

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①目標とする学修成果の達成を保証する評価であることを検証すべきである。

②知識・技能・態度における形成的評価をさらに充実させるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

学修成果である卒業時コンピテンシーの達成について、様々な観点から評価を行っている。知識については総合的・実践的な診療能力の視点から医学教育研究センターが適宜教務課のデータを使って検証し、教務委員会、教授会に報告している。知識の総括的評価は卒業試験で行っ

ている。医学教育研究センターは IR 担当として受験生の医師国家試験の自己採点結果を入手し、卒業試験の成績は医師国家試験の成績と非常に明らかな相関関係を示しており信頼性は高いと評価した。また各科目の点数を全国平均と比較し、どの領域が弱いかにについて分析し、結果を教務委員会で報告した。その結果を受け、各診療科は講義や実習のあり方を検証する作業に入っている。技能評価については、共用機構が行う OSCE にてその到達度を評価しており、現時点で全学生が OSCE に合格している。

形成的評価については、教育主任会議や FD をはじめ、医学教育ワークショップでも取り上げられその必要性・重要性について教員の理解は進んでいる。新たに、医療面接・身体診察・臨床推論について Mini-CEX を導入して形成的評価を 6 年生の外來臨床実習で行うことを目標とした。しかし全診療科の教育場面での実践的、かつ積極的な運用には至っていない。1 つの取り組み例として、1 年生の医学入門実習では、臨床技能訓練を導入し OSCE を行っている。そこで学修目標に到達できなかった学生は集めて補講を行い、至らなかった部分を認識させ OSCE 再試験を行い個人にフィードバックしている。なおこの OSCE の点数は総括的評価には含めていない。また卒業試験 A 後の詳細な解説によるフィードバック（卒前医学総合講義）が実施されているが、今後、まずは同様の手法で各科試験などへの拡大も図っていく。また学生の評価については 2024 年度開催が予定されている医学教育ワークショップのテーマの一つとして再度取り上げ具体的な議論を進めていく予定である。

また態度に関する形成的評価の充実については、各講座の教育担当者が集まる教育主任会議において、学生の問題行動の是正対策、態度評価や形成的評価の具体的な取り組みを行った。例えば著しいアンプロフェッショナル行動に限っては教務委員長や医学部長まで報告が行っていたが、臨床実習における学生の問題点をリアルタイムに抽出するため LMS にアンプロフェッショナル行動の報告サイトを準備し、以前よりも細かな報告がなされるようになった。しかし個々の学生の監察結果が学生個人に形成的に評価されていない。その形成的評価を学生にリアルタイムにフィードバックする方法を模索している。その形成的評価を集積し、態度について総括的に評価する体制を考えている。今後は、入学時から卒業時までの縦断的でシームレスな評価の中に、形成的評価をどのような形で組み込んでいくか、教務委員会と医学教育研究センターを中心に議論を行い、教員が日常的な教育活動の中で知識・技能・態度の形成的評価を充実させるように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

卒業試験部会議事録（令和 5 年 3 月 2 日）
卒業試験部会議事録（令和 5 年 4 月 28 日）
教務委員会議事摘録（令和 5 年 5 月 8 日）
教務委員会議事摘録（令和 5 年 6 月 12 日）
クリニカル・クラークシップ事務局会議議事摘録（令和 5 年 8 月 7 日）
クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録（令和 5 年 8 月 30 日）
クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録（令和 5 年 12 月 18 日）
クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録（令和 6 年 2 月 5 日）
医学教育研究センター マンスリーレポート No. 98（令和 5 年 5 月）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、カリキュラム(教育)単位ごとに適切な試験の回数と方法を検討することが望まれる。

②全学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的・建設的・公正なフィードバックを行うことが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

前年度の改革による卒業試験回数の3回から2回への減、卒前医学総合講義の充実化は継続しており、その成果に関する情報解析を進めている。各学年の総合試験については、実施がほぼ固定化されてきたが、特に4年生においては共用試験の成績、5年生においては臨床実習実施状況との兼ね合いから、進級判定における判断基準に関してはまだ明確にされていない部分があり、各科試験の在り方と合わせて教務委員会を中心に検討を進める。

形成的評価の適切な実施法の検討と合わせて、各学年での評価機会の設定について議論を進める必要がある。第3学年と第4学年での短期集中型講義の試験後の解説講義については積極的に導入を検討するよう、教務委員会、カリキュラム委員会、医学教育研究センターで議論を進める。一方で、座学に割く時間が多く、形成的評価機会の確保に必ずしも繋がっていない部分も指摘されており、今後座学の在り方についても継続して議論を行っていく。

改善状況を示す根拠資料

卒業試験部会議事録（令和5年3月2日）

卒業試験部会議事録（令和5年4月28日）

教務委員会議事摘録（令和5年5月8日）

4. 学生

領域4の改善項目として、「使命の策定と教育プログラムの管理を審議する委員会に学生が参画する」などが指摘された。これを受け、学生は学修対策部会やPCCE部会に積極的に参画しているが、使命の策定や教育プログラムの管理を審議する委員会への参画については、引き続き、改善活動が続ける。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①多様な入学者選抜方法を採用している。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

4.2 学生の受け入れ

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①地域や社会からの要請に応じて入学者数を定め、それぞれの入学枠の募集人員を調整している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①入学時から卒業時まで継続して個々の学生をきめ細かくサポートする学内コンサルタント制度を導入し、機能していることは高く評価できる。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

4.4 学生の参加

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①使命の策定と教育プログラムの管理を審議する委員会に学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

学修対策部会（第4～6年生が委員として参加）、第4学年の臨床実習前演習部会への学生参加は継続して行われているが、教務委員会やカリキュラム委員会（学生委員はあり）への学生参加は実現していない。同2つの委員会では学生参加が必ずしも望まれるものではない議題（共用試験に関わる審議、卒業・進級判定に関する審議）が少なからず存在することから、学生参加の適切な在り方・機会を検討していく必要があるが、使命の策定と教育プログラムの管理に関してはできるだけ積極的に学生の参加を推進していくよう、会議体の在り方を含め教務委員会を中心に改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

学修対策部会議事摘録（令和5年5月22日）

学修対策部会議事摘録（令和5年10月23日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

5. 教員

領域5の改善項目として、「教員活動評価システムを活用して教員の活動や能力開発にフィードバックする方策を確立する」、「講師や助教が医学教育ワークショップに積極的に参加してカリキュラム全体を理解する」などが指摘された。これを受け、コロナ禍で開催できなかった医学教育ワークショップを4年ぶりに開催して若い教員の能力開発に活用したが、教員の教育活動に関する方針の策定と教員の活動を把握・評価。活用する方策の確立については、引き続き、改善活動が続ける。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①教員の募集選抜に関する方針として、「求める教員像と教員組織の編制方針」が策定されていることは評価できる。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①地域医療連携講座を開設し、地域医療教育に関する教員を選考していることは評価できる。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①医学教育ワークショップを定期的開催し、種々の教育上の課題について議論している。

改善のための助言

- ①教員の活動を評価するシステムを活用し、エフォート率などを把握・評価してフィードバックする方策を確立すべきである。
- ②個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解すべきである。
- ③講師や助教等の若い教員のFDへの参加率を向上させるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

「教員の教育活動と能力開発に関する方針」と「教育スタッフ研修会の指針」について、教育評価委員会(三部門会議)から最終案が提出され、教授会にて承認された。今後は、実質的な運用に向けて教育FDを担当する組織体制を見直し、教員の活動を把握・評価してフィードバックする方策を確立するとともに、定期的な電子FDを通じて、若い教員が継続的に研修を受けて自らの能力開発に努めるように、改善活動が続ける。

医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年改訂版)について教員により理解を求めるため、「改訂コアカリ」と題したFDシリーズを電子シラバス(Hondana)に作成し、e-learningを実施した。第1回は419名が受講し、第2回は434名、第3回は265名が受講している。次年度も継続して行うこととしており、コアカリの理解を求めるとともに受講しやすいFDの作成・開発を継続していく。

改善状況を示す根拠資料

医学教育研究センター マンスリーレポート No. 97 (令和年4月)
教授会議議事摘録 (令和5年4月12日)
教務委員会議事摘録 (令和5年7月10日)
教務委員会議事摘録 (令和6年3月11日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6. 教育資源

領域6の改善項目として、「診療参加型臨床実習の実質化に向けて学内外の指導者の能力向上を図ること」、「学生の電子カルテへのアクセスを確保すること」などが指摘された。これを受け、クリニカル・クラークシップ部会が臨床実習の改善に取り組み、クリニカル・クラークシップ実務者会議と学生が参加する臨床実習協議会を発足させ、学生と教員からの意見収集に努めた。

臨床実習における電子カルテの使用については、2023 年 4 月から学生（Student Doctor）に電子カルテの権限を追加し、「学生の診察記事」として電子カルテに直接記載できるようにした。診療参加型臨床実習の充実については、現場の教員と学生が議論を重ねながら、臨床実習の指導者の能力向上や学生の電子カルテのアクセス確保について、今後も改善活動が続ける。

6.1 施設と設備

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①旧病棟と旧外来棟を有効に活用し、学生の自習室と共同学習室を確保している。
- ②実践的な臨床技能の教育・訓練を実施するためのクリニカルスキル・トレーニングセンターを設置している。
- ③学生の課外活動のための部室棟や学生の休憩用スペースが整備されている。

改善のための助言

- ①水害などの災害に対する避難訓練、確実な安否確認方法の整備、災害後の復旧・事業継続計画を検討し、実施すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

災害時の安全確保の強化については、学校法人久留米大学将来構想 VISION 2022-2026 に明記された行動目標にしたがい、学生の安否確認方法の見直しと災害時避難訓練策定の具体的な活動案を検討・提案する医学部災害対策 WG を設置した。今後は、医学部災害対策 WG が主体となって、安否確認方法の整備、災害避難訓練の実施、災害後の復旧・事業継続計画 (BCP) の作成を実行するように、改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

学校法人久留米大学将来構想 VISION 2022-2026
医学部災害対策 WG 議事摘録（令和 5 年 7 月 19 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①学生からの要望を反映させ、教育の施設設備を整備している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.2 臨床実習の資源

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①学生が臨床実習で適切な臨床経験を積めるように患者数と疾患分類を確保している。

改善のための助言

①診療参加型臨床実習の実質化に向けて、学内外の指導者に対しても指導能力のさらなる向上を図るべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

臨床実習の指導責任者から構成されるクリニカル・クラークシップ実務者会議では臨床実習における Good practice をメンバーで共有すべく、会議の中でその実践を共有してきた。さらに臨床実習で学生が主体的に問題点を見出して学修を進められるように協同学習（グループ学習）を促進できるように臨床実習前訓練（PCCE）で教員に対して小ワークショップという形でFDを行った。その結果、複数の診療科で学生は現場で学習したことを教員の支援のもとで共有できるようになった。さらに教員の指導能力向上と動機づけを促進し、学内外の臨床医の指導能力のさらなる向上を図る目的でベストクリニカルティーチャー賞・診療科賞の授与を初めて行った。これにより Good practice に対する関心も上がり、FD 受講への意欲が高まることが期待される。また外部医療施設の教員に対して久留米大学医学部クリニカル・クラークシップ学外施設説明会を開催し、指導項目の周知と改善点を議論し共有した。今後は、診療参加型臨床実習の実質化に向けて、クリニカル・クラークシップ部会が臨床実習指導者研修会（Web-FD）を開催し、改善活動が続ける予定である。

改善状況を示す根拠資料

クリニカル・クラークシップ部会議事摘録（令和5年9月6日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.3 情報通信技術

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①導入した電子シラバスを初めとして、情報通信技術をさらに有効かつ倫理的に活用すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

導入された電子シラバス（Hondana）については、特に問題なく運用されている。2023年度は、

2019 年の COVID-19 発生前と比して、約 10 倍の利用率（10 万 PV/年から 100 万 PV/年に増加）となり、オンデマンドの講義動画と連携するなど、シラバスとしてだけでなく学修教材としての活用が進んでいる。さらに、大学病院の臨床実習での電子カルテの閲覧と記載については、2023 年度 4 月から電子カルテに学生(Student Doctor)の権限を追加し、「学生の診察記事」として電子カルテに直接記載でき、指導医が随時コメントを記載して学生が有効に活用できるようになった。

IR に関しては 2023 年 3 月に医学部長を委員長とする IR 委員会が設置され、医学部医学科 IR 情報データベースに係る情報保護の取り扱いが定められた。それに先立ち IR サーバー（富士通のデータベース・IR 分析システム）の導入が完了し、教務課が主体となり学籍情報の情報蓄積を開始した。教育用 IR としては、教務委員会内の IT 部会において、学生・教員・カリキュラムに関する IR について議論していくことが当部会で提案された。今後は入学試験・共用試験 CBT・国家試験の成績の繋がりが確認できるようにデータを集約・解析し、教員と学生にフィードバックする仕組みの構築を目指し、学生の IR、特に成績に関する内容を最優先に、データ集約システムの導入を進めることになった。今後の具体的な運用などについては、IR 委員会、教務委員会の IT 部会や、その他の関係部署で、情報システムに関する「学内規約」の改訂・設定を整備したうえで決定していく予定である。また、医学部 IR 委員会と教務委員会内の IT 部会の統合についても議論が始まったところである。情報システムに関する「学内規約」については、DX 推進検討ワーキンググループ委員長を中心に検討会を実施し、学生を対象とするセキュリティポリシーについては教学部門にある個別委員会（IT 部会）が作成することが提案された。

改善状況を示す根拠資料

Hondana page view (PV) 数の変遷

医学部医学科 IR 委員会細則

医学部医学科 IR 情報データベースに係る情報保護の取扱い

IT 部会議事摘録（令和 5 年 7 月 5 日）

第 1 回「学内規約」に関する打合せ 議事摘録（令和 5 年 5 月 15 日）

第 2 回「学内規約」に関する打合せ 議事摘録（令和 5 年 9 月 27 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①情報通信設備が整備され、自己学習への活用が行われている。

改善のための示唆

- ①診療参加型臨床実習の実質化のために、学生の電子カルテへのアクセスを確保することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

コロナ禍において導入された、情報通信技術を最大限に活用し、講義の動画配信や臨床実習の教材配布を継続し、学生の学習促進を試みた。臨床実習における電子カルテの使用については、2023 年 4 月から電子カルテに学生(Student Doctor)の権限を追加し、「学生の診察記事」として電子カルテに直接記載できるようにした。引き続き、学生の電子カルテ閲覧・記載を通じて、診療参加型臨床実習の実質化を図るように、改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

クリニカル・クラークシップ部会議事摘録(令和 5 年 11 月 1 日)

6.4 医学研究と学識

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.5 教育専門家

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①医学教育研究センターが、マンスリーレポートやニュースレターを活用して、積極的に教育情報を発信している。
- ②文学部の教育専門家が教育技法の開発に参画している。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.6 教育の交流

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①研究室配属 (Research Mind Cultivation Program) では、海外や国内の先端研究機関での実習機会を設けている。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①国際交流の強化に向けての担当部門を設置している。

改善のための示唆

①教職員と学生の国内外の交流に対して経済的支援の強化が望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

同窓生からの寄付(大塚量久留米大学医療振興基金)を活用した海外短期語学留学制度を 2023 年度に導入し、医学科第 2 学年 3 名がこれを利用した。また、大学におけるダイバーシティ・インクルージョンの面から、国内外交流の推進を行っている。研究室配属(RMCP)で第 3 学年の 6 名が短期国外留学した。また、複数の海外の大学から短期留学生を 8 名受け入れた。ハワイ医学教育プログラムを導入し、国際標準の医学教育を受ける機会を設けた。今後も引き続き、学生と教職員の国内外の交流に対して経済的支援の拡充のための改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

教授会議議事摘録 (令和 5 年 4 月 12 日)

教授会議議事摘録 (令和 5 年 5 月 10 日)

教授会議議事摘録 (令和 5 年 6 月 14 日)

教授会議議事摘録 (令和 5 年 7 月 12 日)

教授会議議事摘録 (令和 5 年 11 月 8 日)

7. 教育プログラム評価

領域 7 の改善項目として、「教育課程と学修成果を定期的に監視するプログラムを設け、プログラムを着実に評価し、評価結果をカリキュラムに確実に反映する」、「教育評価委員会のカリキュラム評価部門で包括的なプログラム評価体制を充実させる」、「教員や学生からのフィードバックを系統的に集積・分析するシステムを構築する」、「フィードバックの分析結果に基づいたプログラムを開発する」、「学生や卒業生の実績を集積・分析する」、「広い範囲の教育関係者からカリキュラムについての意見を収集するシステムを構築する」などが指摘された。これを受け、カリキュラムの PDCA サイクルについて、カリキュラム委員会がカリキュラムの計画や策定(P)、教務委員会がカリキュラムの実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集や分析、教育評価委員会のカリキュラム評価部門がカリキュラムの点検や評価(C)、教務委員会がカリキュラムの対処や改善(A)を行うことを教職員全員に周知した。そしてカリキュラム評価結果をカリキュラム改善に反映するため、カリキュラム評価部門は、IR 部門を経由した教学データの収集を行い、包括的なプログラム評価ができるような体制を充実させることを目指すとした。今後、学生や卒業生の実績の集積と分析、広い範囲の教育関係者のカリキュラムに関する意見を収集する具体的なシステムの構築については、引き続き、改善活動を続ける。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムを設け、プログラムを着実に評価し、評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムとして、全学生を対象にした学生アンケートを行っている。具体的には第 6 学年を対象とした卒業時アンケート、第 1 学年～第 5 学年を対象とした進級時アンケートを毎年実施している。アンケート調査結果は、医学教育研究センターが IR として集計と分析を行った。アンケートでは、学生から教員と学生間の距離が近く教員の教育意欲の高さは評価されていた。しかし教育 1 号館の老朽化や勉強空間の不足、試験の厳しさ、進級判定の厳しさが問題として挙げられた。教育評価委員会よりコロナ禍を契機として留年者の増加、進級率の低下が指摘され、改善を求めた。臨床実習前学生における座学のあり方を再検討する方向で教育ワークショップの議題に挙げられた。日勤帯以降も教育 1 号館を開放し勉強の空間として開放し講義室の椅子クッションを整備した。また学習者評価の見直しとして各科試験とは別に、学年末に総合試験を実施することで、学修成果を包括的に評価する方策を導入した。今後は、学生アンケートや医学教育ワークショップの成果を活用し、臨床実習前学年の講義の在り方を検討していく予定である。教育評価委員会が評価とまとめを行い、教務委員会と教授会議で報告し、ニュースレターとして講座や部署に配布し、学内の掲示板(電子掲示板を含む)に掲示し周知した。

今後は、学修成果、学生アンケート、卒業生アンケートや医学教育ワークショップの成果などを教育評価委員会が定期的にモニタリングおよび評価を行い、評価の結果がカリキュラムに反映されるように教務委員会・カリキュラム委員会と緊密に連携して改善活動を続けていく体制の確立を目指す。プログラムを着実に評価するため教育評価委員会に教務、教員、カリキュラム

評価に関する作業部会を設置することを検討する。

さらに、学生が自身の学修成果を自己評価できるマイルストーンを明確化したほうがよいと考えており、カリキュラムの教育課程と学修評価について卒業時コンピテンスごとに全学年の学生と教員が双方向で、成果を達成できているかどうかモニターできるマイルストーンの作成が必要である。

改善状況を示す根拠資料

教育評価委員会 部門長会議（令和5年5月2日）
教務委員会議事摘録（令和5年5月8日）
教務委員会議事摘録（令和5年6月12日）
医学教育研究センター マンスリーレポート No.98（令和5年5月）
学修対策部会議事摘録（令和5年5月22日）
学修対策部会議事摘録（令和5年10月23日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①教育評価委員会の下部組織であるカリキュラム評価部門での包括的なプログラム評価体制を充実させることが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教育評価委員会の三部門長会議では久留米大学医学部の理念を再検討し、その柱が「地域に貢献できる臨床医家の養成」にあると確認し、その理念に沿った活動計画を議論している。カリキュラム評価部門では、2024年にメンバーを新たに基礎医学、社会学、臨床医学、医学教育センター所属の教員から再構成した。教育評価委員会の下部組織として使命、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーそしてコンピテンシーの整合性を検証している。その結果、教育評価委員会全体で修正の必要性があると結論づけられた。今後は、改めて学生に提示されたコンピテンシーと照らし合わせて、カリキュラムが学修目標（コンピテンシー）を達成できているかをカリキュラム評価部門で評価を行う。

改善状況を示す根拠資料

教育評価委員会 部門長会議（令和5年5月2日）
教育評価委員会 部門長会議（令和5年10月5日）
教育評価委員会 部門長会議（令和5年10月16日）
教育評価委員会 部門長会議（令和5年10月31日）
教育評価委員会 部門長会議（令和5年11月6日）
教育評価委員会 部門長会議（令和5年11月8日）
教育評価委員会 部門長会議（令和6年1月15日）
教育評価委員会 部門長会議（令和6年1月22日）

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

- ①教員や学生からのフィードバックを系統的に集積し、分析するシステムを構築すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

学生アンケートは、これまで同様第6学年の卒業時アンケートと第1学年～5学年の進級時アンケートを実施し、2023年度回答率99%であり、4年分のデータが蓄積している。教務委員会及び教授会で報告し、アンケートで得た学生の意見を検討し、教室へのコンセント増設や座席クッションの設置など、学習環境の向上を図った。教育FDで教員の意見収集を行っているが、より教職員の意見を収集するため、教育主任アンケート、教職員アンケートの導入を推し進め、意見集約、分析・検討、フィードバックができるよう、改善活動を継続する。

改善状況を示す根拠資料

令和5年 卒業時/進級時 学生アンケート結果（令和5年6月12日）
教務委員会議事摘録（令和5年6月12日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

- ①フィードバックのデータを分析し、プログラムを開発することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

カリキュラムのPDCAとして、カリキュラム委員会が計画や策定(P)、教務委員会が実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集や分析をIRとして行い、教育評価委員会が評価(C)し、教務委員会が対処や改善(A)を行う体制が確立した。学生アンケートを収集して分析し、教育評価委員会がその結果を評価しカリキュラム委員会に報告や提言を行う体制を固めている。学習環境の改善には努めているが、フィードバックのデータをカリキュラムやプログラム開発に活用する段階には至っていない。学生側のニーズを引き受ける窓口となる学修対策部会では、学修を行う上でのニーズについて学生の意見集約を行い、その結果を教務委員会に報告している。その後カリキュラムの検討などを行っているが、より多くの学生の意見を求める機会を設けること、教職員アンケート等の導入を推し進め、その結果に基づいて教育プログラムの開発を行えるように、改善活動を継続する。

改善状況を示す根拠資料

カリキュラム委員会議事摘録（令和5年6月26日）
カリキュラム委員会議事摘録（令和5年10月26日）
学修対策部会議事摘録（令和5年5月22日）
学修対策部会議事摘録（令和5年10月23日）

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①2019年に医学部同窓会員に対して卒業生アンケートを実施した。

改善のための助言

①学生や卒業生の実績を集積・分析するシステムを構築すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教育評価委員会において、卒業時アンケート第2回目を2022年度に同窓会を通じ5月に依頼（郵送/FAXで7月末〆切）、1月に再依頼（QRコード/URL添付で2月末〆切）を行い、179名から回答を得たが、まだ結果分析が行えていない。今後、IR委員会が設立され、IRとしてデータを解析し教育評価委員会で評価を行い、その結果について教務委員会及び教授会にフィードバックを行う予定である。今後も定期的に調査・データ収集を行い、分析するシステムを構築できるよう、医学教育研究センター、教務課、臨床研修センター、医学部同窓会で連携し、改善活動の協議を継続する。

改善状況を示す根拠資料

教育評価委員会 部門長会議（令和5年5月2日）
教育評価委員会 部門長会議（令和5年10月5日）
教育評価委員会 部門長会議（令和5年10月16日）
教育評価委員会 部門長会議（令和5年10月31日）
教育評価委員会 部門長会議（令和5年11月6日）
教育評価委員会 部門長会議（令和5年11月8日）
教育評価委員会 部門長会議（令和6年1月15日）
教育評価委員会 部門長会議（令和6年1月22日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①学生選抜・カリキュラム立案・学生カウンセリングに関する学生の実績を分析し、責任ある委員会にフィードバックを提供することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

学生カウンセリングに関する実績については、学生支援室が学生相談室の利用状況（相談件数や相談内容）を学生部協議会（全学組織）に報告し、学生委員会や教授会議にフィードバックを提供している。IRセンターの委員会規程の策定や委員選考を行ったため、今後委員会を開催し、学生カルテの導入について検討していくとともに、入学者選抜やカリキュラム立案に関する学生の実績を収集・分析し、アドミッション検討委員会やカリキュラム委員会にフィードバックを提供するように、改善活動を継続する。

改善状況を示す根拠資料

学生部協議会議事摘録（令和5年6月15日）

7.4 教育関係者の関与

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①卒業生の実績について、同窓会や臨床研修センターからフィードバックを得ている。

改善のための示唆

①教育課程とプログラム評価を確実に実施し、広い範囲の教育関係者が閲覧することが望まれる。

②広い範囲の教育関係者からカリキュラムについての意見を収集するシステムを構築することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

毎年 4 月に改善に向けて見直しを行い、できるだけ幅広い教育プログラム実施に関わる情報収集発信をできる体制づくりの検討を継続している。2023 度は①本学の理念・カリキュラム・医学教育に関わるトピック (CBT, OSCE) を担当役員からの記事として、また②在学生からの本学医学教育に対する客観的意見、③新任教授・退任教授を含めた多くの教育関係者のコラムを紙媒体・電子媒体にて年 3 回(医学教育ニュース)学生および教員に発信するとともに学内の掲示板等への掲示、チャットツール・LMS(学習管理システム)・医学部ホームページなど多チャンネルからの配信を行い、また教育関連病院に紙媒体で送付し、広範囲の教育関係者に公開し実質的精読率を上げる工夫を続けている。一方、当ニュースへの投稿呼びかけ等による意見収集は続けているが十分とは言えない。今後はより意見を収集するシステムを構築できるよう他の部会との連携を含めた検討を進める。

改善状況を示す根拠資料

教授会議議事摘録 (令和 5 年 5 月 10 日)

教務委員会議事摘録 (令和 5 年 5 月 8 日)

広報活動部会議事摘録 (令和 5 年 4 月 19 日)

医学教育ニュース 69 号 (令和 5 年 8 月 9 日)

医学教育ニュース 70 号 (令和 5 年 12 月 25 日)

医学教育ニュース 71 号 (令和 6 年 2 月 8 日)

8. 統轄と管理運営

領域 8 の改善項目としては、「設置が計画されている『医学 IR センター』に十分な資源を配分する」が指摘された。これを受け、教育活動を高めるための環境整備とコロナ禍の学生の生活支援を行うとともに、IR センターに十分な資源を配分するように、改善活動が続ける。

8.1 統轄

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.2 教学のリーダーシップ

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①設置が計画されている「医学 IR センター」に十分な資源を配分すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

IR サーバーの導入が完了し、IR に関する例規が整備された。今後は、設置が計画されている IR センターに十分な資源を配分するように、改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

IT 部会議事摘録（令和 5 年 7 月 5 日）

教務委員会議事摘録（令和 5 年 11 月 6 日）

教務委員会議事摘録（令和 6 年 2 月 8 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.4 事務と運営

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画
とくになし

改善状況を示す根拠資料
なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ① 自己点検・評価委員会に外部検証を実施する機関として学外者による外部評価委員会を組織し、教育・研究水準の向上と組織の活性化に資する評価と提言を行っていることは評価できる。

改善のための示唆
なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画
とくになし

改善状況を示す根拠資料
なし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準

特記すべき良い点(特色)
なし

改善のための助言
なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画
とくになし

改善状況を示す根拠資料
なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)
なし

改善のための示唆
なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画
とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

9. 継続的改良

領域9の改善項目として、「教務委員会・カリキュラム委員会・教育評価委員会・医学教育研究センターの連携を進め、定期的・継続的にカリキュラムの改善に取り組む」などが指摘された。これを受け、カリキュラムの内部質保証として、カリキュラム委員会がカリキュラムの計画や策定(P)、教務委員会がカリキュラムの実施や実行(D)、医学教育研究センターが IR 機関となって教務課から情報の収集や分析を行い、そのデータを基に教育評価委員会がカリキュラムの評価(C)を行う。教育評価委員会からのフィードバックをカリキュラム委員会は受けた後、カリキュラムの改善(A)のための計画を行い、教務委員会が実行する(PDCA サイクル)一連の流れを確認した。教務委員会・カリキュラム委員会・教育評価委員会・医学教育研究センターは、3年後(2026年度)の受審に向けて、定期的・継続的に連携してカリキュラムの改善に取り組む。

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①独自の能動的学修手法として「協同学習」を導入したことは評価できる。

改善のための助言

①教務委員会・カリキュラム委員会・教育評価委員会・医学教育研究センターの連携を進め、定期的・継続的にカリキュラムの改善に取り組むべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

カリキュラムの継続的な改良のためにカリキュラム委員会がカリキュラムの計画や策定(P)、教務委員会がカリキュラムの実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集や分析、教育評価委員会(カリキュラム評価部門)がカリキュラムの点検や評価(C)、教務委員会がカリキュラムの対処や改善(A)を行うといったそれぞれの委員会の具体的な構成と役割を明確化し独立して活動することを確認した。そして今後継続的な改善を行う体制(PDCA サイクル)の中で連携をとりながら実践していくことを目指している。特にカリキュラムの立案に関しては改訂コア・カリキュラムの運用開始に伴い、新たな対応が求められており、カリキュラム委員会が教育カリキュラム改良への取り組みを開始している。

カリキュラム評価に関しては、まず評価のもとになる教育データの集約のために従来あった教務委員会内の IT 部会を統合し、医学教育研究センターを中心とした IR 委員会が設置され、IR 機能(情報の収集や分析)を発揮する枠組みが決定した。現在、サーバーの設置やデータ蓄積の実施環境、IR 委員会の規程を整備し、データ分析を行うための基盤を構築している。今後は IR 委員会が中心となり、学生の学修データの収集と分析を行い、その分析結果は教育評価委員会に提示され、そこで評価を受けカリキュラム上の問題点が抽出されていく見込みである。また教育評価委員会は、今後、使命、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの整合性を検証し、学生に提示されたコンピテンシーが達成されているかの評価を行い、その評価結果をカリキュラム委員会や教務委員会に提示して以後の継続した改善に結びつける方向で進めている。

改善状況を示す根拠資料

医学教育研究センター マンスリーレポート No.101 (令和5年8月)
カリキュラム委員会議事摘録 (令和5年6月26日)
カリキュラム委員会議事摘録 (令和5年10月26日)
IT 部会議事摘録 (令和5年7月5日)

教務委員会議事摘録（令和 5 年 11 月 6 日）

教務委員会議事摘録（令和 6 年 2 月 8 日）

質的向上のための水準（評価を実施されず）

久留米大学医学部医学科 年次報告書

発行日 2024 年 8 月 23 日

発行者 久留米大学医学部医学科
〒830-0011 久留米市旭町 67
TEL 0942-31-7527
FAX 0942-31-4374

印 刷 医学部事務部庶務課